

# 麦穂だより

第37号

発行 武蔵野手打ちうどん保存普及会川崎  
事務局 川崎市宮前区初山 1-12-26-3 門井孝一  
ブログ URL (<http://teuchiudon.exblog.jp/>)

2011年6月  
Tel.044-975-7609

## 「うどんに魅せられて」

～会長 就任にあたって～

北條 秀衛

5月29日の総会で、はからずも武蔵野手打ちうどん保存・普及会の2代目会長に就任させていただいた。前任者に遠く及ばない浅学菲才の身にとって大変なことになってしまった。ただただ会員の皆様のご理解とご協力によって任を全うするしかない。

会が支部として発足してから10年、この間、池田会長には本当にお世話になった。

心から感謝申し上げたい。ありがとうございました。

10年前、故加藤有次博士から勧められ支部を立ち上げてから事務局を担ってきたが、今年度から、また、新たな第一歩を歩みだすこととなった。しかしながら、蕎麦好きであった私が、なぜかもうどんに魅かれていったのだろうか。加藤先生からは、酒席でいつも、日本の文化、とりわけ民俗学と食文化についてお話を伺った。そして学際が大事だと強調され、自分で実践されていた。既に小平市に武蔵野手打ちうどん保存・普及会を結成され、活動を行っていた。飲むお酒も日本酒の常温と決められていた。それも一升瓶を好んで注文されていた。3人の時はまずまずだが、2人の時はそれ相応の覚悟が必要であった。

有山庵で先生手打ちのうどんをご馳走になるうち、小学校で行われていた講習会にいつか通い始めていた。何回か通ったころ川崎に支部を設立する話になった。同行していた山

田さん(現 幹事長)と共に無理だとご辞退申し上げたがその後、飲むたび責められた。そして終に飲んだ勢いも手伝って承諾してしまった。市民ミュージアムや日本民家園の民俗学としての深まりと来場者の増加、そして市民に愛される市民のための生きた博物館としての食文化「うどん」についての先生の力強い言葉が、当時、博物館のあり方で悩んでいた私をつき動かした。

その後、講習会、ボランティア派遣、うどん食べ歩き、うどんの歴史研究、粉の研究、出汁とつゆ、変わりうどんの打ち方と活動領域が広がることもうどんへの関心が深まっていった。たかがうどん、されどうどん

ある。病が高じて、最近では海外の粉食文化にも興味が出てきた。中国・台湾・韓国でうどんを見つけ試食してきた。それぞれ味わい深い思い出となった。我が会でも10周年記念事業の一環として韓国うどん訪問団が9月に企画され、その準備が着々と進められている。いまから楽しみである。

3年前から自分で小麦(農林61号)の栽培も始めており、先週刈取りを行った。この後脱穀、製粉と進みうどんとなる。何時か会員の皆さんに振る舞うことができたらと考えている。

東京スカイツリーの高さは634メートル、武蔵である。わたし達のうどん会も日本一を目指したいものである。



# 平成23年度定期総会 報告

とき；平成23年5月29日（日）12時～13時  
ところ；川崎市立高津高等学校第1会議室

今年の定期総会では、昨年度の第4回うどん講習会が、東日本大震災の影響を受けて中止となったことを受けて、午前・午後の講習会を再度設定したことにより、昼時間帯での設定となった。

当日はあいにくの雨天であった。中島副会長の開会の言葉につづき、会員数64名中、出席会員20名、委任状21名であり、この定期総会が成立していることが報告された。

冒頭の池田会長の挨拶では、まず東日本大震災の被災者へのお見舞いの言葉が述べられた。次いで、当会が10年の永きにわたって活動を続けてきたことを重く受け止め、10周年記念事業の実現と今後のさらなる継続発展への期待が語られた。

議長には桑畑祥生氏が選ばれ、その進行により第1号議案 平成22年度事業報告が北條事務局長から、次いで第2号議案 平成22年度決算報告も北條事務局長から提案され、また会

計監査報告が島根会計監査から報告され、それぞれ承認された。

続いて第3号議案 平成23年度事業計画案が北條事務局長から、次いで第4号議案 平成23年度予算案も北條事務局長から提案された。主な内容は10周年記念事業についてであり、設立10年目にあたる11月4日周辺での記念事業の実施、秋頃には海外のうどんの食生活視察、さらに記念誌の刊行が検討されていることである。いずれも承認された。

第5号議案 会則の改正、及び第6号議案 役員改選は、山田幹事長から提案された。会則改正は役員改選に伴うものであり、会の所在地を「事務局長宅」と表記すること、名誉会長の職を新設するものである。いずれも承認され、最後に北條新会長から挨拶と抱負が述べられた。新役員体制は右ページの通り。

定期総会後は、すでに述べたとおり、午後の講習会が行われた。

細田 俊介（幹事）



## 新役員体制

会長	北條 秀衛			
副会長	中島 常雄	舘 建三		
幹事長	山田 敏徳			
事務局長	門井 孝一			
幹事	江原 光子	細田 俊介	村田 芳包	
(新)	吉井 孝大	桑畑 祥生		
会計	中野 敏雄	中村 文子		
会計監査	島根 正隆	橋本つね子		
名誉会長	池田 輝夫			
顧問	藤島とみ子			

\*\*\*\*\*

## 活動報告（前号以降）

- 3月13日（日） 平成22年度第4回うどん講習会 高津高校調理室  
東日本大震災の影響により中止
- 4月20日（水） 第6回役員会 総合自治会館 出席者13名  
・定期総会にむけて  
・10周年記念事業について
- 5月12日（木） 第7回役員会 総合自治会館 出席者11名  
・定期総会にむけて  
・役員人事について  
・10周年記念事業について
- 5月29日（日） 平成23年度（第11回）定期総会 高津高等学校第1会議室  
出席者 会員20名 委任状21名  
平成23年度第1回うどん講習会  
午前14名 午後3名 役員11名
- 6月6日（月） 第1回役員会 市民活動センター・武蔵小杉 出席者9名  
・今年度の事業運営について  
・役員執行体制について  
・10周年記念事業について

# 顧みて

名誉会長 池田 輝夫

2001年11月4日 川崎市中原市民館において、「武蔵野手打ちうどん保存普及会 川崎支部」が発足した。発足にあたって、当時川崎市民ミュージアムの館長であった加藤有次先生が、「武蔵野手打ちうどん保存普及会」を、1988年1月30日に小平市に設立していた関係から、先生と川崎市教育委員会職員との交流のなかで、「川崎支部」結成の話がまとまり設立することとなった。

この会が設立されて10年の歳月が流れ、2010年4月には、支部から独立して、「武蔵野手打ちうどん保存普及会川崎」となり、今年の11月には、10周年の記念式典を行うことが計画されている。

この間、2003年11月に加藤有次先生がご逝去されたことは、晴天の霹靂であった。加藤先生が、武蔵野の風土の中から、地域の食文化を体系化し、後世に伝承したいとの願いが武蔵野台地の南端の川崎市域にも花開いたのである。加藤先生は、会報「饅頭 第14号」の巻頭言で、「本会にとっての大きな展開は、11月4日に川崎支部が結成されたことです。」また、「川崎

の食文化は、われわれ同様、武蔵野うどんを作って食べ、同様の食文化を持っています。」さらに「本人が伝統的武蔵野の食文化を後世に伝達する意義は多大なものであると自負しているのでは」と述べられている。



その川崎市域では、現在も冠婚葬祭時には、うどんをふるまう風習が残っている。武蔵野の風土のなかから生まれ育った「武蔵野手打ちうどん」が地域の食文化を伝承していることと思われる。この「武蔵野手打ちうどん」を通して、地域の活性化・地域の文化振興に寄与することを念じてやまない。

これまで「武蔵野手打ちうどん保存普及会川崎」を育て、発展にご協力いただいた地域の方々や会員・役員の献身的なご努力に対し深甚の敬意と感謝を申し上げますとともに、会の益々の発展を祈念するものである。

## ウドンウドンウドンウドンウドンウドンウドン ウドンウドンウドンウドンウドンウドン

周知のように3月11日に東日本大震災がありました。地震と津波により未曾有の被害を被りました。同時に福島原子力発電所が壊滅的な打撃を受け、その後放射能の被害が心配されたり、さらに夏を中心に電力不足が予想され節電を求められています。

そうした中、当会で定期総会が開かれ、新執行体制が生まれました。会長が替わったことを始め、今までにない変更がありました。併せて広報部も、これまでの有能で10年近くにわたって麦穂だよりを継続発行してきた人から私に重責が移されました。心許ない挨拶で恐縮ですが、よろしく願いいたします。(俊)